



フルーツとも呼ぶべき豊潤な味
一度食べたらもう夢中!

鹿島台地域発

【デリシャストマト】



このコーナーでは、誰かにすすめたくなる伝統工芸や物産など、大崎市自慢の逸品を毎月一品ずつ紹介していきます。
2回目は、鹿島台地域の「デリシャストマト」です。

「普通」のトマトと比べて約半分位の水で節水栽培することで糖度が上がります。果肉が厚く、甘さと適度な酸味のバランスが取れた、飽きのこない、後味さっぱりトマトです」と話すのはJAみどりのトマト部会鹿島台支部の千葉卓也さん。

デリシャストマトは、鹿島台地域で二十年前から栽培が始まり、現在、二法人、四個人の農家が生産しています。均一の丸い形になりづらく奇形化しやすいため、栽培が難しく全国でも生産農家が少ないため、一般にはあまり出回っていないそうです。JA市場への出荷や自宅庭先などで直売しているそうです。



▲取材にご協力いただいた千葉さん

管理には細かな神経を使い、地下水や雨水を使用しているそうです。

デリシャストマトは糖度が売り物です。これまでは目で確認する糖度計を使って計っていましたが、より高度な最新の糖度センサー(甘さを計る機械)を導入し、確実に選別されています。糖度別に極上デリシャストマト、スーパーデリシャストマト(糖度9以上)、デリシャストマト(糖度約7〜9度)の3種類に分類されるそうです。

千葉さんは「これからも皆さんに喜んでもらえるよう、安心・安全はもちろんです、おいしさ・新鮮さを常に心がけ、もっともっとおいしいトマトづくりを追求していきたい」と話してくれました。ぜひ一度ご賞味あれ。



▲甘くおいしく実ったデリシャストマト

「予」

野菜的種をまいて育てました。美しく咲いたり出来栄がいいと褒められるので、それがうれしくてね。「植物に興味を持ったきっかけを優しい笑顔で語る「長靴和吉先生」こと高橋和吉さん。高校・大学時代は民間薬や植物の植相について研究したという筋金入りの植物博士です。教員となり二年目に赴任した牡鹿町網地島では、島に生息する全ての植物について、植生から食へ方までを調べ、「網地島植物誌」を自費出版で発刊しました。現在もその著書は県内の植物を調べる上で、貴重な一冊として重宝されています。

その頃、いつも手ぬぐいをぶら下げ、長靴を履いて植物を求めて歩いたという先生。それが「長靴先生」と呼ばれるようになった由縁で、「長靴を履いていると落ち着くんですよ」とも。

先生の知識と興味は、野生の植物全般にわたりますが、中でも専門は「シダ植物」。わらび、ぜんまいなどを含め四百種以上あり、興味は尽きないそうです。

先生の手にかかると全ての自然の植物が教材。公民館講座や講演などを通じて、子どもから大人まで多くの人たちに、楽しみながら自然の大切さを伝えてくれます。

古川植物愛好会の設立を始め、多くの団体の設立や活動に参加、定年退職後は「野生植物研究所」を設立し、調査・研究・情報の発信と大忙しです。

自然の恵みを体と心で知ることができる「長靴和吉先生」の楽しい授業を、皆さんもぜひ受けつけてください。



Profile(略歴)
1944年 古川市に生まれる
1969年 山形大学教育学部科卒業
1969年 牡鹿郡女川町立女川第三小学校を振り出した県内の小中学校へ赴任
2005年 古川第二小学校校長として定年退職
2005年 市民ギャラリー 緒絶の館館長就任 野生植物研究所を開設
専門 植物学(フロア関係)
研究テーマ 宮城県内のシダ植物以上の高等植物の植相の研究
所属 宮城県植物の会副会長
古川植物愛好会会長
東北植物研究会幹事
日本植物分類学会会員
ほか多数
URL://www.wakichi.com/

長靴和吉先生の 心で楽しむ自然授業

野生植物研究所所長
市民ギャラリー 緒絶の館館長

高橋 和吉 さん
(古川・荒谷第四)



▲愛用の長靴はいつだって泥まみれ。どこでも行けちゃう魔法の長靴。